

そんな事とは、つゆしらず

榎戸材木店 会長 榎戸正人

カナダに出張し始めた40数年前にはバンクーバーは雨季で雨が降っても小ぬか雨で、近くのレストランに行く時も傘はささず、街に行く人たちも傘をさしている人はいませんでした。ところが、20年もすると日本の梅雨のような降り方になり、皆、傘をさすようになりました。これも地球温暖化の影響なのでしょうか。

日本でも最近「線状降水帯」などという今まで聞いたことのない言葉が聞かれ、熱帯のスコールのような激しい雨が降り続くようになり、以前のシトシトとした梅雨らしい雨の降り方ではなくなりつつあります。気象学者は日本は温帯地域ではなく亜熱帯地域になりつつあると言っています。

これは材木屋にとっても無縁な話ではなく、梅雨の長雨、集中豪雨で床上浸水の被害が続出し、しかも暑いとなれば木造住宅の壁の中は最悪の環境。腐りにくい国産材が再評価されるようになるでしょう。心配なのは「木材は腐るからダメだ」と言われてしまうことです。「腐りやすい樹種があるなんて、そんな事とは、つゆ知らず」では済まされません。

本来、アジアの暖かい地域で栽培されていた米は朝鮮半島から日本に渡り徐々に寒い地域でも育つようになり、品種改良もあり秋田や新潟の東北地方が美味しい米の産地と言われるようになりました。しかし、今では米の品評会で上位を取るのには更に北の北海道産に変わりつつあります。品種改良もあるのですが、やはり地球温暖化の影響なのでしょう。

このまま温暖化が進むと、いずれ九州では米がとれなくなるのではないかと、今までは寒い地域でも採れるように品種改良してきたが、これからは暑い地域でも美味しい米が採れるように改良しなくてはならないとの意見もあります。そうしなければ、九州では東南アジアのようにインディカ米しか採れなくなる……まあ、最近はカレーライスが人気なので、カレーに合ったモチモチではなくパサッとしたインディカ米が人気となる可能性はありますが。

いずれインドやアジア南部地域は真夏には40度を超える日々が続く、人間が住める環境ではなくなるとうそ言われています。インドは人口が中国を抜き経済発展を続けており、これからはインドの時代だとも言われていますが、人が住めない国になったのではインドの時代も何もありません。熱中症で死ぬ人が続出し、人口も減ってしまうかも知れません。

日本でもこの数年、異常に暑い夏が続いていますが、この夏も暑くなるとの予報なので、熱中症には十分、注意が必要です。家庭菜園のトマト畑で死にたくはない……

異常気象が日常になった今、皆様もお体を大切に。でも、健康は管理できても、天候は管理できませんからねえ……大雨に注意と言われても、注意のしようがありません。ただ、外出を控えて家の中でじっとしているだけです。